

会議録

会議の名称	平成29年度第4回西東京市子ども子育て審議会計画専門部会
開催日時	平成30年2月14日（水曜日）午後2時35分から午後2時50分まで
開催場所	西東京市役所田無庁舎3階 庁議室
出席者	部会員：谷川部会長、尾崎部会員、蓮見部会員 事務局：子育て支援部長 保谷、子育て支援課長 飯島、保育課長 遠藤、保育課主幹 岡田、児童青少年課長 齋藤、子ども家庭支援センター長 日下部、保育課長補佐 海老澤、子育て支援課調整係 栗林、田中、八巻、健康課保健係 武藤 欠席者：網干部会員、上田部会員
議題	1 審議 (1) 子ども・子育て支援事業「確保の内容」への意見・回答について (2) 教育・保育の「確保の内容」について (3) 子ども子育て支援事業計画中間見直し（案）について 2 その他
会議資料の名称	資料1 子ども・子育て支援事業「確保の内容」について（平成30・31年度見直し案） 資料2 平成28年度 地域子育て支援拠点事業の取組内容 資料3 教育・保育の「確保の内容」について 資料4 【西東京市子育て・子育てワイワイプラン】第6章 子ども・子育て支援事業計画（平成30年3月改定案）
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
<p>1 審議</p> <p>(1) 子ども・子育て支援事業「確保の内容」への意見・回答について</p> <p>(2) 教育・保育の「確保の内容」について</p> <p>(3) 子ども子育て支援事業計画中間見直し（案）について</p> <p>○谷川部会長：</p> <p>本日が計画専門部会の最後の会議となる。子ども子育て審議会では部会報告を行うための最後の確認をしたい。事前に資料をご覧いただいていたたり、今までの議論を確認したりはできていると思うので、どうしても共有しなければいけない部分に絞って進めたい。まずは事務局から説明をお願いします。</p> <p>（事務局から資料について説明）</p> <p>○事務局：</p> <p>資料1は、事前に部会員の皆様にお配りして、お寄せいただいたご意見を踏まえて、市の考え方をあらためてお示ししたものである。ご議論いただいた内容をとりまとめたものが、資料4の計画改定案ということになるので、資料1に基づいた記載で不足する点等があればご意見をいただきたい。</p> <p>○谷川部会長：</p> <p>資料1には専門部会員の意見等という記載を入れてもらった。</p> <p>そもそも今回の計画専門部会のミッションは、市の人口推計見直しに伴って確保の内容が変わる、若しくは、変えないという市の案がそれでいいかどうかということだったが、議論</p>	

の中で部会員の皆さんがずっと繰り返し提起してきたことは、人口推計が変わったから、若しくは、国の指示が変わったから確保の内容が変わる、ということだけで本当にいいのだろうか、ということだった。

前回の審議会で部会報告をしたときに、会長から、今回は人口推計の変更にまつわる見直しなので、やれることよりやれないことの方が多いが、これまでの議論を次の計画につなげていくために消えてなくならないようにしたい、ということがあって、専門部会員の意見等という欄を設けた資料を事務局に作ってもらった。

その記述についても、あらかじめご覧いただいた際に尾崎部会員からご指摘があった部分があったりして、十分ではないかもしれないが、そういう議論を経て、我々としては全般的に、国が示す基準ではなく、西東京市の実情に合わせて市役所にもっと工夫をしてほしいと思っているということ、審議会で報告したいと思っている。

尾崎部会員からのご指摘については、この場でご説明をいただいて、事務局の方から回答をいただきたい。

○尾崎部会員：

私が指摘したのは、大きく分けて3点だった。

まず、専門部会員の意見等の記述で、特に学童保育について、内容が少しわかりにくいかと感じた。ここは、定員超過という言葉ではなく、地域によって入所率に偏りがあるということと、放課後子供教室も含めた高学年の居場所が全地域で必要であるという2点についてお伝えしたいものである。

また、児童館ランチタイム・サマー子ども教室については、すでに試行されているものなので、「検討します」ではなく、前向きに予算の拡充に努めていただきたいと指摘をした。

それから、放課後子供教室については、登録者数と利用者数の延べ人数ではなく頭数で、具体的な数字を提示していただきたいとお願いをした。

○事務局：

地域により学童クラブの入所率に偏りがある、全地域に高学年の居場所が必要であるとの2点の認識はこちらも同じである。

児童館ランチタイム・サマー子ども教室の拡充の検討を明記してほしいとのことであったが、この事業は試行実施しているもので、現段階において予算を含めて拡充すると記載するのは難しい。しかしながら、引き続き事業を実施していきながら、高学年の居場所について検討していきたいと考えている。

放課後子供教室の数字については、教育委員会に確認したところ、毎回出席はとっているが、利用状況の集計は難しいということであった。運営協議会に事務的負担をかけないということなので、大変申し訳ないが、本日は登録割合を回答させていただく。

平成28年度に実施した7校の放課後子供教室の登録者数は1,179人、7校の児童数は3,551人で、登録割合は33.2%になる。参考に、学年別の登録割合は、1年生は53.9%、2年生は50.0%、3年生は40.6%、4年生は29.5%、5年生は14.9%、6年生は5.6%であった。

今後、高学年の居場所については、放課後子供教室もそうであるが、児童館ランチタイム・サマー子ども教室は先ほども申し上げたように試行実施であるので、引き続き検討しながら、次期の計画の策定の際に検討したいと思う。放課後子供教室は、今、総合教育会議や社会教育委員の会議等、教育委員会でも市長部局との連携を協議していただいている。提案として市長部局の方にも内容を確認したという旨も伝えられているので、しっかり協議しながら、高学年の居場所については引き続き検討していきたいというふうに考えている。

○谷川部会長：

我々がほしい回答とは違うが、かといって、できないものをできるといわれても形骸化してしまうので、今後もしっかり見ていくことは必要になると思う。見ていくために、見ていかなければいけないポイントを私たちが忘れないということで、そこは、綱干部会員から幼稚園の預かり保育等のことについてもかなり活発にご意見をいただいたので、そのことも含めて審議会で報告させていただきたいと思う。

蓮見部会員からも、ここで何かご意見があればお願いしたい。

○蓮見部会員：

いろいろ言ってきて、最初はできないと突っぱねられていたところを、検討するというふうになったので、そこは前向きな変化と思って受け止めて、よかったなと思っている。

○谷川部会長：

では、審議会にはそのあたりをしっかりと説明した上で、部会報告をさせていただくということによろしいか。

(異議なし)

○谷川部会長：

ほかに事務局から確認すべきことはあるか。

(なし)

閉会